

溝咋神社



一の鳥居より参道を望む

大阪府茨木市五十鈴町9-21

TEL (0726) 34-8297

(溝咋神社奉賛会編纂)



本殿



神門より境内を望む



溝咋神社古図(摂津名所絵図より)

溝咋神社の由緒

当社は第十代崇神天皇のころ、ご祭神のゆかり深き当神社の地に創建されたと伝えられている。第六十代醍醐天皇の延長五年(西暦1273)に延喜の式内社に列せられる。

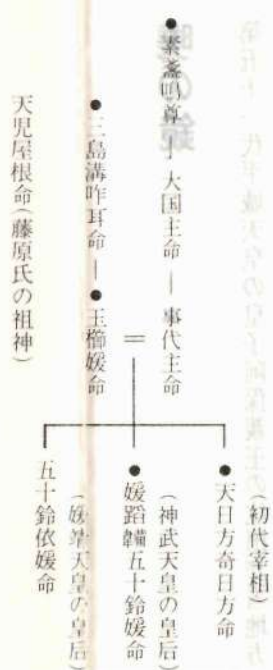
江戸時代までは朝廷を始め、公家、大名、商人、農民の信仰あつく経済的にも豊かであったが、明治元年と九年に安威川がけっかいし社殿・社領が荒廃する。当社はもと上ノ宮(浪商学園内)と下の宮(現在の地)に分かれていたが明治四十二年に下の宮に合せてまつる。戦前には府社に昇格する。

ご祭神

媛踏躰五十鈴媛命、溝咋玉櫛媛命、溝咋耳命、天日方奇日方命、素盞鳴命、天児屋根命をまつる。

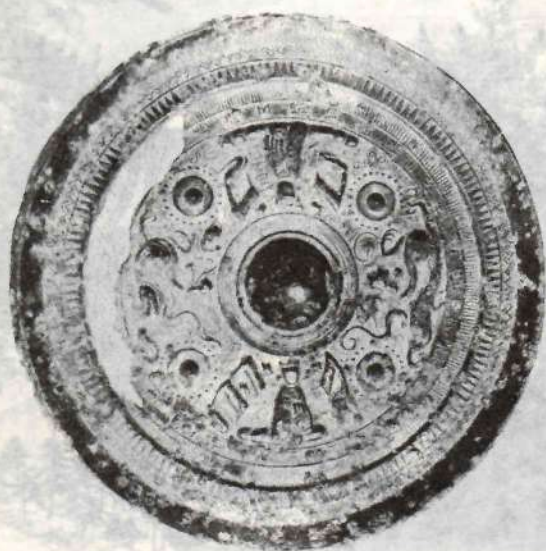
日本書紀によれば神武天皇が即位の前に皇后をたてんとし、広く豪族より良縁を求められたとき事代主命と三島溝咋玉櫛媛命の子である五十鈴媛こそ才色兼備であるとすすめられ、天皇はよろこんで正妃とされた。

ご祭神系図



社殿は文明年間(西暦1469〜1486)領主溝咋兵庫介質信再建、文禄年間(西暦1558〜1569)領主長谷川式部少輔(織田信長の家臣、後秀吉につかえ一万石を領有、子孫は徳川氏につかえ二千石の旗本として当地を領有)が再建した。武将等の信仰厚く、祭日には武士をつかわしけいごをする。

現在の社殿は寛保二年(西暦1742)に大阪の豪商殿村平右衛門と石崎喜兵衛(沢ノ鶴酒造の祖)の寄進によるもので、江戸中期主人の殿村平右衛門が禁制の外国貿易を行い罪に問われたが、石崎喜兵衛が当神社に祈願し罪を許されたことにより、両氏によって再建されたものである。



あかつき かみ
暁の鏡 (中国の漢の時代につくられたもの)



このはななくやひめのみこと
厳島神社 (木花開耶姫命、菅原道眞をまつる)

古墳

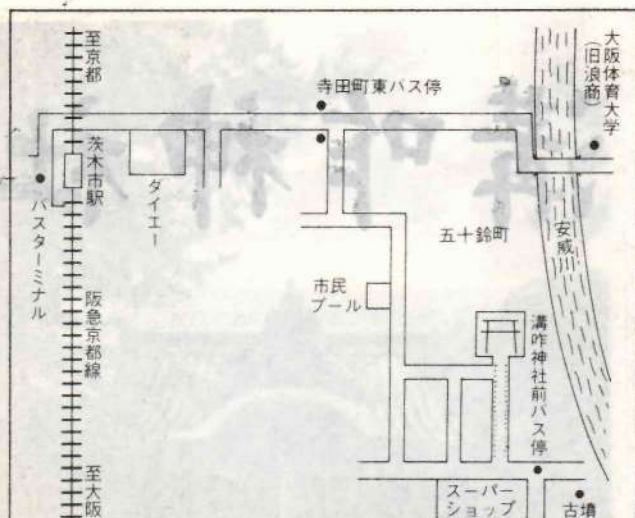
高槻市三島江にある三島鴨神社の祭神事代主命は当神社の玉櫛媛命とご夫婦であるので、昔は両社の間には祭日が同じで神興渡御があつたが、争いが起り跡絶えたと伝えられている

当神社の松林の南東にある古墳はその時の神興を埋めた塚(又は御祭神の古墳との説もある)とも伝えられている。

暁の鏡

第五十一代平城天皇の皇子阿保親王の位田が当地方にあり、第五十三代淳和天皇の天長元年(西暦824)の夏、ひどいひでりにあい人々が苦しんだ。親王が天皇にお願ひして鏡をたまわり当神社の神前にて祈れば大雨が降り人々が大いに喜んだ。親王はこのことを天皇に申し上げたところ、天皇はその鏡に溝咋大神と書かれ当神社に与えられたと伝えられている。

なおこの鏡は中国の漢の時代につくられたもので青銅製、二神二獸鏡、漢の驪氏が五穀がみのるのを祈ってつくったものである。



交通

阪急茨木駅より

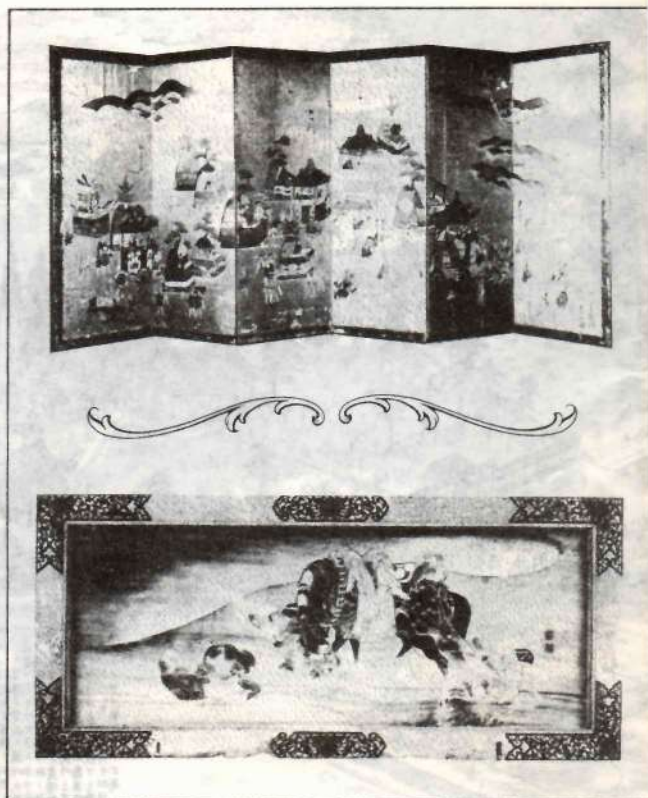
近鉄バス 千里丘行(二階堂経由)溝咋神社前下車

京阪バス 枚方・玉川団地行 寺田町東下車5分

国鉄茨木駅より

京阪バス 枚方・玉川団地行 寺田町東下車5分

溝咋神社付近略図



(上)八坂神社山鉾絵金屏風

(下)森祖仙筆絵馬

祭日

元旦祭	一月一日
稲荷祭	四月三日
祖霊祭(了專祭)	四月十一日
春祭	五月九日
大祭	十月十四日
鎮火祭	十二月十日
大祓祭	十二月三十一日

社宝

- 後西天皇第一百十代(西歴1682)の書になる掛軸
「おこなうや こころはさこそ 住居さえ
塵なきてらの 杉のした道」
- 土佐光起筆天満宮像
- 狩野元信筆天満宮像
- 三条小鍛治宗近作の剣
- 暁の鏡
- 八坂神社山鉾絵金屏風
- 森祖仙筆絵馬
- 狩野派の法眼春卜筆の額

大阪府茨木市十五番地12-1

TEL (0726) 34-8527

(森祖仙筆絵馬)